

THE BYODOIN PHOENIX HALL AND JODOIN TEMPLE
ITS BEAUTY AND FAITH



浄土院 鳳凰堂 平等院



国宝
《中供養菩薩像 南14号》
(前期展示)



国宝
《中供養菩薩像 北1号》
(前期展示)

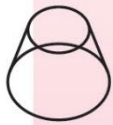


国宝
《中供養菩薩像 北13号》
(後期展示)



国宝
《中供養菩薩像 南1号》
(後期展示)
いずみ
文徳云(1053)年
平等院
○平等院

その美
と
信仰



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp

JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分

夜7時まで開館

※開館状況は急遽変更になる可能性があります

2022 2/5^土 - 3/27^日

※会期中、一部展示替えがあります。前期2月27日(日)まで、後期3月1日(火)から
休館日：毎週月曜日(ただし3月21日(月・祝)は開館)、3月22日(火)
開館時間：10:00-19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：高橋・大石 広報担当：岡田・大庭

静岡市美術館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN


SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

2022年に開創970年を迎える平等院は、平安時代中期に朝廷で絶大な権勢を誇った公卿・藤原道長が所有した宇治河畔の別荘を、永承7(1052)年に長男の頼通が寺院に改めて建立した京都屈指の名刹です。同寺は現世に極楽浄土を再現するべく壮大な伽藍が整備され、創建期に遡る現存唯一の遺構である鳳凰堂には、建築、彫刻、絵画、工芸と技術の粋が結集されています。定朝作の阿弥陀如来坐像(国宝)を安置した堂内は善美を尽くした装飾で華麗に荘厳されて、優美で格調高い王朝貴族の美意識を今に伝えています。

平等院では近年、創建当初の姿の復元を目指し、鳳凰堂の修理や調査研究が進められています。本展では雲中供養菩薩像(国宝)に代表される鳳凰堂ゆかりの名品を中心に、調査の過程で発見された平安彫刻や鳳凰堂本尊阿弥陀如来坐像台座華盤納入品といった貴重な作品や、養林庵書院(重要文化財)付属の障壁画など塔頭の浄土院に伝わる寺宝の数々も展覧し、平等院が守り伝えてきた信仰と美の遺産をご覧ください。

開催概要

- 開催期間 2022年2月5日(土)－3月27日(日) 全44日間
※会期中、一部展示替えがあります。前期2月27日(日)まで、後期3月1日(火)から
- 休館日 毎週月曜日(ただし3月21日(月・祝)は開館)、3月22日(火)
- 開館時間 10:00－19:00(展示室入場は閉館の30分前まで)
- 観覧料 一般1,400(1,200)円、大高生・70歳以上1,000(800)円、中学生以下無料
*リピーター割引:2回目以降、美術館窓口にて本展の有料観覧券半券提示で当日券200円引き
*()内は前売および20名以上の団体料金(団体券は来館当日に限り購入可能)
*障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料
- 前売券 12月18日(土)から2月4日(金)まで以下の箇所にて販売
静岡市美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、谷島屋(パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店)、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店、大丸松坂屋静岡店友の会
- 主催等 主催:静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、
読売新聞社、Daiichi-TV、平等院浄土院
後援:静岡市教育委員会、静岡県教育委員会
特別協賛:  しずおか焼津信用金庫 / 一般財団法人しずしん地域文化振興財団



国宝 平等院鳳凰堂正面全景 ©平等院

展覧会のみどころ

1. 平安彫刻を代表する名品、国宝《雲中供養菩薩像》4 軀を静岡初公開

鳳凰堂内陣の小壁に本尊阿弥陀如来坐像を囲むようにして懸け並べられた全 52 軀の国宝《雲中供養菩薩像》。平安時代の仏教彫刻を代表する名品を、本展では前・後期各 2 軀を心ゆくまでご堪能いただくことができます。

2. 鳳凰堂研究の最前線！現代によみがえる鳳凰堂創建当初の極彩色

平等院では様々な研究機関と協力しながら保存修理と調査研究を継続しています。最新の研究成果に基づいて制作された堂内壁扉面の復元模写などを通し、華麗な彩色で荘厳された建立当初の鳳凰堂の姿に迫ります。

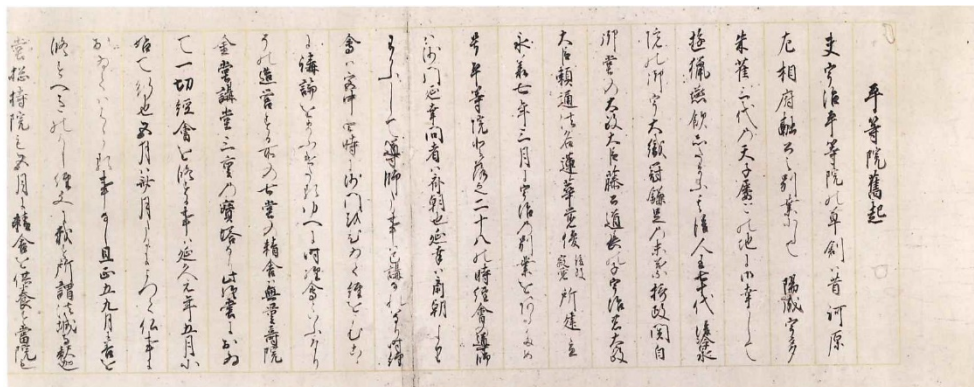
3. 平安から平成まで！寺外初公開を含む多彩な寺宝を一挙公開

創建期に遡る平安時代中期の貴重な資料から、平成 24(2012)年に画家・山口晃が奉納した《当 吾 来 迎 図》まで、平等院と塔頭の浄土院が守り伝えてきた多彩な宝物の数々をかつてない規模で紹介します。

プロローグ 平等院の開創

平安京の南東に位置する宇治は、京、大和、近江を結ぶ水陸交通の要衝として発展し、風光明媚な景勝地であったことから王朝貴族たちの別荘が営まれました。11 世紀初頭に紫式部が著した『源氏物語』の主人公・光源氏のモデルとされる左大臣^{みたまとのとおる}源融が9世紀末期にこの地に構えた別業^{べつごう}（別荘）は、やがて朝廷で絶大な権勢を誇った藤原道長の所有となり、これを引き継いだ長男頼通が永承7（1052）年に仏寺に改めて平等院を開創しました。

導入として平等院草創の経緯や当時の伽藍の様子について記した縁起、発掘調査によって庭園跡から出土した創建期の瓦のほか、『源氏物語』の古写本や代表的な場面を描いた画帖等を紹介し、開創期の平等院の姿に迫ります。



後陽成天皇の第八皇子
良純親王揮毫の平等院縁起

京都府指定文化財 良純親王《平等院旧起》(部分) 寛永 17 (1640) 年 浄土院蔵 ※前後期で巻替 ©平等院

平安貴族の別荘地・宇治が舞台の物語
『源氏物語』宇治十帖にみる王朝の雅



伝土佐光則《源氏絵鑑帖》 江戸時代 (16-17 世紀)
宇治市源氏物語ミュージアム蔵 ※前後期で場面替



《鬼面文鬼瓦(庭園跡出土)》 平安時代 (11 世紀) 平等院蔵
©平等院

庭園跡から出土 平等院創建期の鬼瓦

第一部 鳳凰堂の美

釈迦入滅から 2000 年が経過し、末法の世が始まるとされる永承 7 (1052) 年に開かれた平等院。その背景には、当時頻発していた天災や疫病の流行に加え、相次ぐ戦乱などによって人々の間に不安が広まったことにより、穢れた現世を離れて阿弥陀如来が住まう西方極楽浄土への往生をひたすらに願う浄土信仰の高まりがありました。

開創の翌年、天喜元 (1053) 年に落慶した阿弥陀堂は、中堂大棟の両端に据えられた鳳凰像と、鳥が翼を広げたかのような構造から、いつしか「鳳凰堂」の名で呼ばれるようになりました。その堂内には仏師・定朝作の阿弥陀如来坐像が安置され、長押上の小壁には本尊を讃嘆しながら飛翔する菩薩の群像を表した総数 52 軀の《雲中供養菩薩像》(国宝) が懸けられています。そして堂内部の扉と壁には上品上生から下品下生まで 9 段階の阿弥陀来迎図、柱から天井の各部材には宝相華などの文様が極彩色で描かれ、贅美を尽くした飾金具や螺鈿で華麗に装飾されました。

第一部では、現世に極楽浄土を再現するべく建立された鳳凰堂ゆかりの貴重な作品の数々を通して、平安の美をご堪能いただきます。あわせて近年の調査研究の成果に基づき創建当初の色彩を蘇らせた復元模写なども紹介します。

鳳凰堂を華麗に荘厳した飾金具
平安の技を伝える名品の数々



《鉄地銅象嵌鍍金花先形金具 (鳳凰堂旧飾金具)》
平安時代 (11 世紀) 浄土院蔵



《金銅宝相華唐草文透金具 (鳳凰堂旧飾金具)》
平安時代 (11 世紀) 浄土院蔵



本尊台座内部から発見！
寺外初公開の
截金ガラス

《截金ガラス残闕 (阿弥陀如来坐像台座華盤納入品)》
奈良-平安時代 (8 - 11 世紀) 浄土院蔵

鳳凰堂の圧倒的なスケールを体感！原寸大の壁扉画模写と創建当初の色彩を再現した復元模写



国宝《日想観図》天喜元 (1053) 年 平等院蔵
※出品は模写 (昭和 29 - 31 (1954 - 56) 年 奈良国立博物館蔵) 【後期展示】



荒木恵信《日想観図 想定復元模写》平成 24 (2012) 年 平等院蔵
【後期展示】
画像はすべて©平等院

静岡県内初公開！平等院鳳凰堂の至宝 国宝《雲中供養菩薩像》



【前期(2月5日-2月27日)展示】 国宝《雲中供養菩薩像》南14号(左)、北1号(右) 天喜元(1053)年 平等院蔵



【後期(3月1日-3月27日)展示】 国宝《雲中供養菩薩像》北13号(左)、南1号(右) 天喜元(1053)年 平等院蔵

画像はすべて©平等院

鳳凰堂本尊の阿弥陀如来坐像を取り囲むように配置された総数52軀を数える菩薩の群像。この《雲中供養菩薩像》は、阿弥陀像の作者である定朝が主宰する工房で制作されたと考えられる日本彫刻史上屈指の名品です。各像はいずれも飛雲に乗り、楽器を奏でたり軽快に踊ったりと、変化に富んだ姿と表情で表現されています。しかし堂内ではおよそ5メートル頭上の小壁に懸けられているため、細部まで鑑賞することは極めて困難です。本展は全4軀(展示替えあり)の繊細かつ優美な造形を間近でご堪能いただける絶好の機会となります。

第二部 祈りの心

開創以来 970 年に及ぶ歴史の中で、平等院が浄土信仰だけに止まらない人々の様々な祈りを受容してきたことも見逃すことはできません。

平安時代後期、宮廷貴族の権力衰退と同時に武士が台頭し、争乱の世を迎えると、交通の要衝であった宇治の地も合戦の舞台となります。『平家物語』に記された鶴退治のエピソードで名高い源頼政が平氏との争いに敗れて平等院で最期を迎えたことから、頼政ゆかりの名跡としても広く知られるようになりました。その後も南北朝の争乱による伽藍焼亡など度重なる荒廃の危機に見舞われながらも、この寺に信仰を寄せる多くの人々の手で復興が進められ、貴重な文化遺産を連綿と受け継いできたのです。

第二部では平等院と塔頭に伝来した仏像や仏画のほか、中世から近世にかけて繰り返し行われた伽藍の修復に関する資料も交え、数々の祈りの造形をご覧ください。

大仏師定朝の父・康尚作とも伝わる古調な平安彫刻

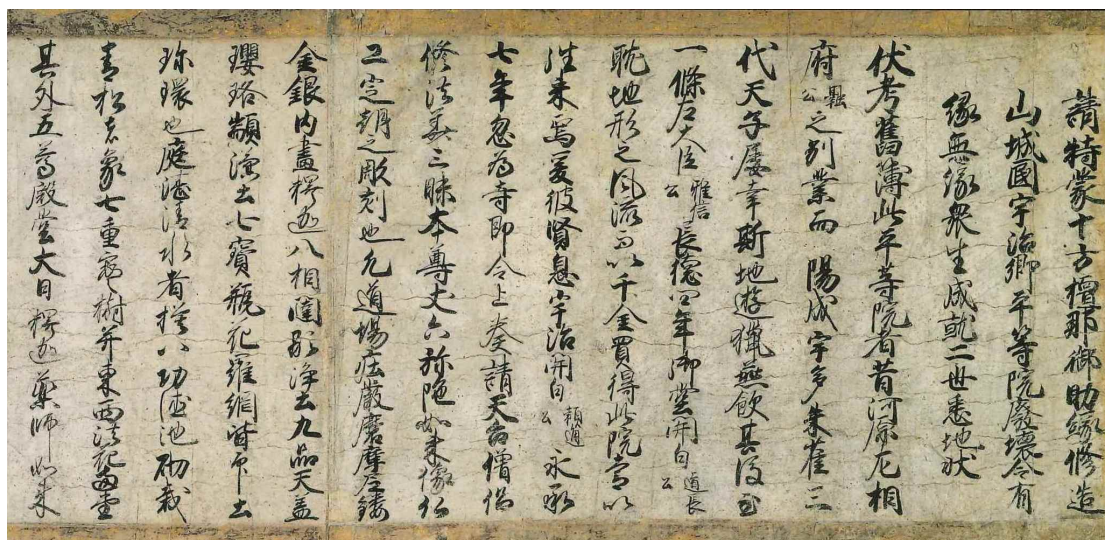


宇治市指定文化財《伝帝釈天立像》 平安時代（11世紀）
浄土院蔵



《源頼政像》 室町時代（15世紀） 最勝院蔵

鶴退治の逸話が残る武将・源頼政
終焉の地に遺された束帯姿の肖像画



京都府指定文化財 三条西実隆《平等院修造勸進状》（部分） 明応9（1500）年 浄土院蔵 ※前後期で巻替
画像はすべて©平等院

室町時代の公卿で当代一の文化人
三条西実隆自筆の修造勸進状

第三部 守り、語り継ぐ—浄土院の収蔵品

創建当初は天台宗寺院であった平等院ですが、荒廃した伽藍を再興するため、室町時代の明応年間（1492–1501）に浄土宗の城誉栄久によって塔頭の浄土院が建立されたと伝わります。以降は天台宗と浄土宗による輪番管理を経て、現在は浄土院と天台宗の最勝院が共同で平等院の維持管理を行っています。

その浄土院には伏見城の遺構を移築したと伝わる養林庵書院（重要文化財）が現存し、狩野山雪の筆とされる障壁画（宇治市指定文化財）が二の間を華やかに飾るほか、平成 24（2012）年には画家・山口晃が描いた 14 面の襖絵《当 吉 来 迎 図》が新たに奉納されました。これは鳳凰堂壁扉画の九品来迎図に着想を得て制作されたもので、現代の京都市内から宇治までの景観と阿弥陀仏の来迎を独自の解釈で表現しています。

本展の終章として、通常は非公開である二つの養林庵襖絵をはじめとする浄土院の収蔵品の数々をご覧ください。これらの作品を通して知られざる平等院の姿とともに、創建以来長く守り伝えてきた美と信仰の遺産を未来に継承していこうとする取り組みについてもお伝えします。

近世初期の平等院伽藍を描いた鳥瞰図



《平等院境内古図（浄土院本 甲図）》江戸時代（17世紀） 浄土院蔵

奉納 10 周年を記念し寺外初公開！
気鋭の画家・山口晃が描いた現代の来迎図



山口晃《当吉来迎図》平成 24（2012）年 浄土院蔵



宇治市指定文化財 伝狩野山雪《籬に梅図（養林庵書院襖絵）》江戸時代（17世紀） 浄土院蔵

画像はすべて©平等院

通常非公開、寺外での公開は 22 年ぶり！
養林庵書院（国重文）二の間を飾る障壁画

関連事業

記念講演会、担当学芸員によるスライドトークなどを計画中。
決定次第、詳細は当館ホームページでお知らせいたします。

アクセス

電車 JR 静岡駅北口より地下道を利用して徒歩 3 分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩 5 分

新幹線 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約 1 時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約 2 時間

車 東名静岡 IC より約 15 分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。

空路 富士山静岡空港より静鉄バス（静岡エアポートライナー）
で約 1 時間

